

# 川崎

## 障害ある兄弟 ドロボー稼業

ダウン症の兄と発達障害の弟の泥棒稼業の旅をコミカルに描いた映画「39窃盗団」(押田興将監督)が、十七日から川崎市麻生区の市アートセンターで上映される。十二月二十一日まで。月曜休映。

「39」は心神喪失者らは刑の免除、減軽すると定めた刑法三九条の意。同条を悪用して「罪に問われないから」と振り込め詐欺のリーダーに唆され、空き巣狙いを始めた兄弟が、失敗続きの中で自分たちの居場所を探していくストーリーだ。

押田監督は、日本映画学校

### 映画「39窃盗団」上映

(現日本映画大、麻生区)の卒業生。兄役は、監督の実弟でダウン症の清剛さんが務めた。毎日、風呂のシャワーを滝に



映画「39窃盗団」の一場面 ©2011サンキューキネマ団

見立てて「修行」をしながら、その日言われた悪口などをぶつぶつ

言い、時に興奮して風呂場のガラスをたたき割る清剛さんを見て、「清剛を丸ごと撮ってみよう」と思ったのがきっかけ。劇中、障害者が詐欺師にだまされたりするが、「実際に直面している状況で、その中でふてぶてしく生きていくさまを見てほしい」と押田監督は話す。

初日は、押田監督や清剛さんらによる舞台あいさつがある。問い合わせは、同センター＝電(955)0107＝へ。

(平木友見子)

市アートセンター